

## 大川目中学校による保護活動

久慈城跡のボランティア活動は大川目中学校の生徒会が主体となって続けています。生徒会長の関上美桜さんは、「1年の時は先輩の指示に従うだけだったが、3年生になった今は、地域に貢献したいという気持ちが強くなった」と地域への思いを語りました。執行委員の二又陽来さんは「久慈城跡は、人の手が加わっていない自然の中にあるので、歴史を感じられるが、坂を上ったり、大きい木の枝を運んだりとても大変」。同じく小倉龍伸さんは「腐敗した木は土から抜いて片付けなければならない」など活動の大変さを話します。しかし、「清掃後は景色が違って見えるので、やりがいを感じている」と口をそろえ、県指定を受けて活動への決意を新たにしました。



久慈城跡の御城印は道の駅「やませ土風館」で販売中。1部300円で、収益は久慈城跡の保存活動などにあてられます



久慈城跡は、道の駅「やませ土風館」で販売中。1部300円で、収益は久慈城跡の保存活動などにあてられます

**久慈城跡の見学会を開催します**

▼日時：7月2日13時30分～16時

▼会場：アンバーホール

※講座の後バスで城跡に移動

▼定員：20人(先着)

▼参加料：無料

▼申込期間：6月7日(火)～6月23日(木)

▼文化課：☎5212700



久慈城跡は大川目の慈光寺近くにあり、自由に見学できます

## もう一つの戦国絵巻 光信公と津軽藩

久慈に伝わるもう一つの戦国時代の歴史と、その流れが現代につながっているというお話を紹介します。

戦国時代の初め頃、久慈に光信公という武将がいました。祖父・家光は金澤城(現・秋田県横手市)の城主でしたが戦に敗れ討死。その子家信は本領である「下ノ久慈」に逃れました。家信の子、光信公は延徳3年(1491)、久慈から軍勢を率いて津軽地方の種里城(現・鱒ヶ沢町)に

居城し、さらに大浦城を築いて勢力を拡大し、大浦氏を名乗り、後の津軽藩の基礎を築きます。その大浦氏の5代目の当主が、久慈の出身であり後に初代津軽藩主となる津軽為信公です。

こうした史実をきっかけに、今、歴史の縁で結ばれた各地域との交流の輪が広がってきています。

### 歴史が結ぶ縁

久慈市と鱒ヶ沢町の間では、以前より中学生の交流事業などの地域間交流が行われており、平成30年10月3日には、歴史文化、災害

時支援、観光、産業など幅広い分野で連携協力する「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結しました。さらに、令和2年10月7日には、光信公と津軽藩にゆかりの4市町(秋田県横手市、青森県鱒ヶ沢町、弘前市、黒石市)と「歴史文化で結ぶ交流宣言」を行いました。歴史のつながりにより、観光・文化・防災などの分野で連携が活発になることが期待されます。

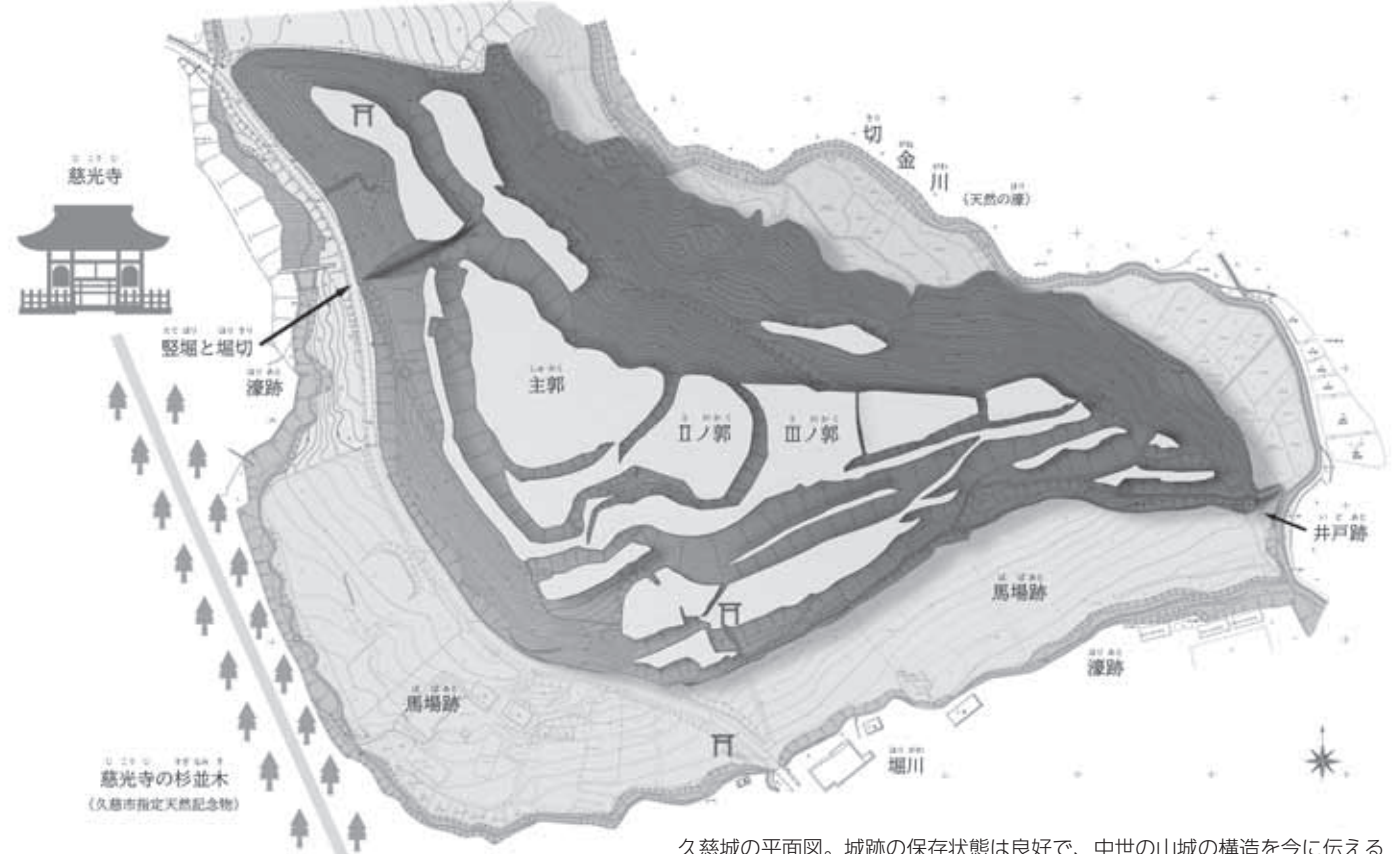
### 南部氏のお城を訪ねて

北東北で広く勢力を誇った南部氏。光信公、久慈氏

も南部氏の一族でした。岩手・青森・秋田の3県には南部氏ゆかりの城跡が数多くあり、うち13の城館・城郭が連携し「南部御城印プロジェクト」が行われています。城名の揮毫や城主の家紋などをあしらった「御城印」を求めて多くの歴史ファンが城跡を訪れ、観光と歴史のPRに成果をあげています。



5市町長による交流宣言



久慈城の平面図。城跡の保存状態は良好で、中世の山城の構造を今に伝える

## 久慈城の構造

久慈城跡は久慈川の支流である切金川と、人工的な堀川に囲まれ、独立した丘陵に立地しています。標高約80m、平地との比高差は約40mで城跡に登ると久慈川沿いに開けた平野を一望できる守りに有利な地となっています。

主郭と呼ばれる最も高い平場から東方向にIIノ郭、IIIノ郭など5段の平場が連続して築かれており、中世の連郭式の山城の特徴を備えています。

各郭のほか、堀切や馬場跡、井戸跡など、現在もそのままの状態良好に保存されています。



久慈城跡の入り口

## 活発な保護活動

久慈城跡は、城の構造を極めて良好に残していること、歴史的背景が明らかであること、地域住民による保護活動が文化財保護の規範的な取り組みであること、これらが高く評価され県の史跡に指定されました。



久慈城跡の清掃へ「いざ、出陣」

大川目中学校は、全校生徒によるボランティア活動を実施。城跡の草刈りや清掃、落ち葉・枯れ木の撤去作業といった史跡の環境整



久慈城跡保存協議会の小倉会長

備を平成29年から継続して行っています。清掃活動前には久慈城跡の歴史を学び、地域の誇りである城跡を守り伝えていこうという取り組みがなされています。

令和元年8月には、久慈城跡保存協議会が設立されました。同協議会では史跡の保存はもとより「御城印プロジェクト」の運営を通じて地域と連携し、久慈城跡について多くの人に知ってもらおうと取り組んでいます。

会長の小倉利之さんは「今回の県指定はゴールではなく、城跡の整備をさらに進め、観光交流の拠点にしていくための本格的なスタートだと思っている」と今後の展開に期待を寄せ、表情を引き締めました。